



## 研究班紹介

### 第3班 〈メディア〉と〈身体〉から見る20世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー

熊谷 謙介 (非文字資料研究センター研究員 / 研究班代表)

19世紀末から出現したとされる大衆社会において、出版や電信などのテクノロジーの発達に伴い「ポピュラー・カルチャー」が生起していく。そこにはイメージの流通という側面とともに、舞台芸術・スペクタクルに顕著な、身体の新しい表現も見られる。これまで視覚資料から近代都市の表象分析を行ってきたが、本研究では、20世紀を中心としてメディアと身体の間を研究していく。ヨーロッパがそれまで培ってきた民衆文化は、どのように「ポピュラー・カルチャー」を受け継がれ、また変容を被ったのか、潜在的なものであるイメ



ジと、直接的な顕現である身体は、矛盾しつつもどのように合流していくのか、ドイツとフランスを中心に考えていきたい。これまで検討してきた絵画・版画・写真をはじめとした①図像資料とともに、舞台や映画の中で見られる②身体技法の分析も試みることで、共同研究で見過ごされがちであった観点を導入する予定である。



## 研究班紹介

### 第4班 東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

孫 安石 (非文字資料研究センター研究員 / 研究班代表)

東アジア開港場（租界・居留地）を巡った日本人の諸活動については、いままで上海を中心とした日本人居住地域を選定し、研究活動を展開してきたが、今回の第五期に当たっては、上海の他に青島と広州を加え、華北、華中、華南の都市の発展と租界の建築を比較検討する視点を確保したい。

とくに青島では中国海洋大学、広州では広東外語外貿大学の協力を得ながら、日本人関連の領事館、銀行、学校、紡織会社などの歴史と建築に関連する調査を実施したい。いままでの共同研究で発掘できた日本外務省外交



史料館、上海市檔案館、台湾中央研究院の資料、各種の新聞 (North China Herald、申報)、雑誌 (Far Eastern Review、『支那事変画報』、『写真週報』)、絵葉書 (神奈川県立非文字資料研究センター所蔵の近藤恒弘コレクション)、写真集なども引き続き活用する。

